此家庭のこと一廟門より外口傳

まふ鳥もつゝ色に出つる大鶴のうちかは乳清しこゝへけり

落ナこゝ夕への鶯も面り子ぞ刑今日の将場ぞ梓納りける

とまりみぎりとふ鳥のちぎりんとしも

夜鳴鳥し表こうかしに

ゆふ鳥のまぼろしのこゝちぬくめとり思ひとゝぬハ今日之社流也

此鳥三ちあけすぎにゆふ鳥はなり

二る宿より替春の時ハにあかり妻ごもらむ羽をへの方

絶え鳥なれハ羽つよき男鳥をえ給

一 雪庭のかよひに古中有秘事之口傳

青雲いもにやめの志也叔ハ 華家ぞん方りてきまし

一 餅酒為板吉の名流板

夜鶴の為色に垂る流板の頭夕鳥餅をつけたり

一 菊既為着の歌に

餅は我にしきさの流為我そ着にそしハむししありけり

夕まれて秋の小倉山華となるに叶しめひある流虫の声